ここが好き!!

子ども・若者を応援できる

誰にとっても心地よい地域の居場所

認定NPO法人が運営するコミュニティカフェ

カフェの立ち上げ・運営にかかわっているのは、さいたまユースサポートネット専務理事の青碕さん(左)と、副代表であり店長の辛さん。

原点は子ども・若者のため

2021年10月、見沼区堀崎町にオープンした「Commons Cafe」。

運営するのは、認定NPO法人さいたまユースサポートネットです。さいたま市を中心に、困難を抱える子ども・若者のサポートを行っている団体です。

「団体だけでは解決できない問題もあります」と話すのは、専務理事の青碕祥子さん。困難を抱える人々を「地域全体」で支えあう仕組みを作りたい——その思いを実現する取組の一つとして、カフェを運営しています。

地域のみんなの楽しい居場所に

「Commons Cafe」には、子連れからシニアまで幅広い年代の方が訪れます。

堀崎中央公園に隣接しており、公園帰りに立ち寄る方や、発表会やパーティーなど地域の催しで貸切りをする方など、利用目的は多種多様。

イベントも定期的に開催しています。子ども向けには、月1回の夕食会のほか、クリスマス会などがあります。シニア向けには、オレンジカフェを開催しています。若者が開くアート展や、様々な社会課題について意見交換をする「ユース哲学対話カフェ」で多世代が交流する機会もあります。

広々とした店内には、たっぷりと太陽の光が差し込み、地域のみんなの楽しい居場所として賑わっています。

壁一面の本棚には、乳幼児向けの本をはじめ、さまざまなジャンルの本があり自由に読むことができます。

チャリティー販売品のコーナーは、若者がレイアウト。収益は子ども・若者のサポートに使われます。

「10種の野菜ジャムスイート&スパイスベジカレー」。ジャム状野菜×無添加の液状カレールーの組み合わせで、子どもや野菜が苦手な人にもおすすめです。適いスパイスで辛さを味変可能です。

「台湾おふくろの味 ルーロー飯」。ルーロー飯は台湾の家庭料理で、辛さんによると「日本でいうと牛丼のような味付け」だそう。

名物はやさしい味わいのカレーと、ルーロー飯

おすすめは、甘口の「10種の野菜ジャムスイート&スパイスベジカレー」。にんにく、セロリ、キャベツなど、癖がある野菜もジャム状にすることで、口当たりまろやかで食べやすくなっています。

店長で台湾出身の辛芳典(しんほうてん)さんが考案した「台湾おふくろの味 ルーロー飯(はん)」も人気です。ごろっとしたお肉としゃきしゃきした付け合わせの野菜が美味しいひと皿は、食べ応え抜群。

カフェの収益は、子ども・若者のために使われます。食事をすることが応援にもなります。ぜひ一度、お店で食事やイベントを楽しんでみませんか。

※オレンジカフェ(認知症カフェ)は、認知症の方やその家族、地域住民、専門職が気軽に集い、交流や情報交換を行う場。

Data

HP

Instagram

Commons Cafe(コモンズカフェ)

- さいたま市見沼区堀崎町12-39
- 東武アーバンパークライン大和田駅から徒歩15分
- 火曜日～金曜日 11:00～16:30(ランチL.O.14:30)
  土曜日 11:00～17:00(ランチL.O.15:00)
- 048-731-8513
- 日・月曜日
- 4台(さいたまユースサポートネット建物前)

市民ライター

Chihiroさん(南区在住)

私が取材しました!

さいたま市在住8年目。コーヒー好き。仕事と子育て(小1娘・3歳息子)の両立で目まぐるしく時が過ぎていきますが、自分の時間も大切にしています!